

注3

大学番号：182

[平成29年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

一宮研伸大学 看護学部 看護学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人研伸学園
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ソウムカ ムラカミ ショウコ
 総務課 村上 翔子

電話番号 0586-28-8110

（夜間） 0586-28-8110

F A X 0586-25-2800

e-mail s.murakami.o@ikc.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	31
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人研伸学園

(2) 大 学 名

一宮研伸大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒491-0063

愛知県一宮市常願通五丁目4番1（愛知県一宮市常願通五丁目4番）

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(イトウ シンイチ) 伊藤 伸一 (平成15年12月)		
学 長	(ドイ マツコ) 土井 まつ子 (平成29年4月)	(モリタ セツコ) 森田 せつ子 (平成31年4月)	体調不良のため、平成31年4月1日付け学長交代(元)
学 部 長	(コバヤシ タツコ) 小林 たつ子 (平成29年4月)	(ミゾグチ ミチコ) 溝口 満子 (令和2年4月)	一身上の都合の退職により令和2年4月1日付け学部長交代(2)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	80 人	年次 人 6 (3年次)	332 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	80 人 (-) [-]	人 (-) [-]	80 人 (-) [-]	人 (-) [-]	80 人 (6) [-]	人 (-) [-]	80 人 (6) [-]	人 (-) [-]	1.13倍	- 倍	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	234 (-) [-]	- (-) [-]	246 (-) [-]	- (-) [-]	246 (1) [-]	- (-) [-]	261 (2) [-]	- (-) [-]			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	217 (-) [-]	- (-) [-]	235 (-) [-]	- (-) [-]	231 (1) [-]	- (-) [-]	247 (2) [-]	- (-) [-]			
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	166 (-) [-]	- (-) [-]	152 (-) [-]	- (-) [-]	157 (1) [-]	- (-) [-]	166 (1) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	97 (-) [-]	- (-) [-]	98 (-) [-]	- (-) [-]	87 (1) [-]	- (-) [-]	83 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	-		1.21		1.22		1.09		1.03				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	- [-] (-)	- [-] (-)	97 [-] (-)	- [-] (-)	98 [-] (-)	- [-] (-)	87 [-] (-)	- [-] (-)	83 [-] (-)	- [-] (-)	令和元年度3年次90名の内 1名が編入学生 令和2年度4年次87名の内 1名が編入学生
2 年次			- [-] (-)	- [-] (-)	93 [-] (-)	- [-] (-)	94 [-] (-)	- [-] (-)	85 [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次					- [-] (-)	- [-] (-)	90 [-] (-)	- [-] (-)	94 [-] (-)	- [-] (-)	
4 年次							- [-] (-)	- [-] (-)	87 [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)		97 [-] (-)		191 [-] (-)		271 [-] (-)		349 [-] (-)		

・ 令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ () 内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成28年度	- 人	- 人	平成28年度	- 人	- 人	
平成29年度	97 人	4 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	4 人	- 人	・他の教育機関への入学・転学(2人) ・就学意欲の低下(2人)
平成30年度	191 人	8 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	4 人	- 人	・進路変更(1人) ・一身上の都合(1人) ・就学意欲の低下(1人) ・健康問題(1人)
			平成30年度	4 人	- 人	・進路変更(1人) ・一身上の都合(3人)
令和元年度	271 人	5 人	平成28年度	- 人	- 人	
			平成29年度	3 人	- 人	・健康問題(1人) ・進路変更(2人)
			平成30年度	人	- 人	
			令和元年度	2 人	- 人	・進路変更(1人) ・健康問題(1人)
令和2年度	349 人	0 人	平成28年度	0 人	- 人	
			平成29年度	0 人	- 人	
			平成30年度	0 人	- 人	
			令和元年度	0 人	- 人	
			令和2年度	0 人	- 人	
合 計		17 人		人	- 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{97} = \boxed{4.12} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{191} = \boxed{4.18} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{271} = \boxed{1.84} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{349} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
人間・社会学関連科目	心理学	1前	2			1					兼1
	哲学入門	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1後	1								兼1
	運動の科学・実技	1後	1								兼1
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	加齢の科学	1後		1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2前		1							兼1
コミュニケーション関連科目	生命倫理	3前		1		1					兼1
	支援論	3前		1							兼1
	国語表現	1前	2						1		兼2
	英語 I	1前	2								兼2
	英語 II	1後		2							兼2
	コミュニケーション論	1後	1			1					兼1
	中国語	2前		2							兼1
	ポルトガル語 I	2後		2							兼1
	ポルトガル語 II	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
自然科学関連科目	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1前	2			1					兼1
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1前		1		1					兼1
	情報科学	1後	2			1					兼1
	微生物学	1後	1						1		兼1
	性と生殖の科学	2前		1							兼1
	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
	研究入門	1後	1			1			2		
	連携ゼミナール I	2通				9	5	6	2		
人間の健康と生活の関連科目	連携ゼミナール II	3通	1			9	5	6	2		
	アカデミックライティング	3前		1		1			2		
	英語文献講読	4後		1							兼1
	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学 I	1前	2			1					
	解剖生理学 II	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
	臨床栄養学	2前	1								兼1
	病態治療学概論	1後	1			1					
健康支援と保健医療システム	病態治療学 I	2前	2			1					兼3
	病態治療学 II	2後	2			1					兼3
	病態治療学 III	2後	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
	こころの科学	3前	1								兼1
	看護援助的関係論	1後	2			1	1	2			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
看護の基礎	保健・医療・福祉システム論	2前		2		1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼2
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1		1					兼2
	基礎看護学 I	1前	2			2					
	基礎看護学 II	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学 III	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学 IV	2後	2			2	1	1	1	2	
看護学入門	基礎看護学 V	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習 I	2後	1			1	1	1	2	4	
	基礎看護学実習 II	3前	2			1	1	1	2	4	
	看護学入門 I	1前		1		2	2	1	1		
	看護学入門 II	1前		1		1					

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
人間・社会学関連科目	心理学	1後	2				1				兼1
	哲学入門	1後		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1前	1								兼1
	運動の科学・実技	1後	1								兼3
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	加齢の科学	1後		1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2後		1							兼1
コミュニケーション関連科目	生命倫理	3前		1		1					兼1
	支援論	3前		1							兼1
	国語表現	1前	2						1		兼1
	英語 I	1前	2								兼1
	英語 II	1後		2							兼1
	コミュニケーション論	1後	1			1					兼1
	中国語	2前		2							兼1
	ポルトガル語 I	2後		2							兼1
	ポルトガル語 II	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
自然科学関連科目	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1後	2				1				兼1
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1後		1			1				兼1
	情報科学	1後	2				1				兼1
	微生物学	1後	1						1		兼1
	性と生殖の科学	2前		1			1	1			兼1
	教養ゼミナール	1通	1				7	4		2	
	研究入門	1後	1				1			2	
	連携ゼミナール I	2通	1				8	6	6	2	
人間の健康と生活の関連科目	連携ゼミナール II	3通	1				8	6	6	2	
	アカデミックライティング	3前		1			8	1		2	
	英語文献講読	4後		1							兼1
	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学 I	1前	2			1					
	解剖生理学 II	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
	臨床栄養学	2後	1								兼1
	病態治療学概論	1後	1			1					
健康支援と保健医療システム	病態治療学 I	2前	2			1					兼3
	病態治療学 II	2後	2			1					兼3
	病態治療学 III	2後	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
	こころの科学	3前	1								兼1
	看護援助的関係論	1後	2			1	1	2			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
看護の基礎	保健・医療・福祉システム論	2前		2		1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼2
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1			1				兼2
	基礎看護学 I	1前	2			2					
	基礎看護学 II	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学 III	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学 IV	2後	2			2	1	1	1	2	
看護学入門	基礎看護学 V	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習 I	2後	1			1	1	1	2	2	
	基礎看護学実習 II	3前	2			1	1	1	2	2	
	看護学入門 I	1前		1		2	2	1	0		
	看護学入門 II	1前		1		1					

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助手	
看護 の 実 践	健康生活支援看護論	2前	2			1					兼2
	プライマリヘルスケア論	2前	2		3						
	家族の健康と看護	2前		1		1					
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2		1	1	1				
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2		1	1	1	1			
	女性の健康生活支援看護実習	3後	2		1	1	1	1			
	在宅看護論	2後	1			1	1				兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2		1	1	1				
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2		1	1	2				
	療養生活支援看護実習	3後	4		1	1	2	1			
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2		1	2					
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1			2			1		
	急性期回復支援看護実習	4前	3			2			2		
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			2		1			
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2			2		1			
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2			2		1			
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2		1						
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2		1		1	1			
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2		1		1	1			
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2		1						
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2		1	1	1				
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2		1	1	1		1		
	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1			1				
	クリティカルケア論	4前		1			1				兼2
	緩和ケア論	4前		1			1				
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
看護 の 統 合 と 発 展	看護教育学	3後		2		1					兼4
	国際看護論	3後		1							
	看護管理学	4前		2		1		1			
	災害看護論	4前		1							兼1
	キャリア形成論	4前		1							兼1
	総合ゼミナール	4通		2		9	5	6	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
助産 師 課 程 専 門 科 目 群	総合看護実習	4後		3		2	3	7	5		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼6
	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1		1			兼1
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1		1	1		
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1		1	1		
	助産学演習	4前		1		1		1	1		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1		1	1	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1		1	1	1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上「人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上」、自然科学関連科目から1単位以上)、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間]) 上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。											

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助手	
看護 の 実 践	健康生活支援看護論	2前	2			1					兼3
	プライマリヘルスケア論	2前	2		3						
	家族の健康と看護	2前		1		1					
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2		1	1	1	0			
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2		1	1	2	0		1	
	女性の健康生活支援看護実習	2後	2		1	1	2	0		1	
	在宅看護論	2後	1			2	2	0			兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2		1	2	0	0			
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2		1	2	1				
	療養生活支援看護実習	3後	4		1	2	2	1			
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2		1	2					
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1			2		1	1		
	急性期回復支援看護実習	4前	3			2		1	2		
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			2		1			
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2			2		1			
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2			2		1			
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2		1						
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2		1		1	1			
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2		1		1	1			
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2		1						
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2		1	1	1				
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2		1	1	1		1		
	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1			1				
	クリティカルケア論	4前		1			1				兼0
	緩和ケア論	4前		1			1				
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
看護 の 統 合 と 発 展	看護教育学	3後		2		1					兼4
	国際看護論	3後		1							
	看護管理学	4前		2		1		1			
	災害看護論	4後		1							兼1
	キャリア形成論	4後		1							兼1
	総合ゼミナール	4通		2		8	6	6	2		
	卒業研究	4通		2		8	1				
助産 師 課 程 専 門 科 目 群	総合看護実習	4後		3		2	4	8	4		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼6
	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1	1	1			兼2
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1	1	1	0		
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1	1	2	0		
	助産学演習	4前		1		1	1	2	0		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1	1	2	0		1
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1	1	2	0	1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上「人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上」、自然科学関連科目から1単位以上)、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間]) 上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	数授	准数授	講師	助教	助手	
人間・社会学関連科目	心理学	1後	2			1					兼1
	哲学入門	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1前	1								兼1
	運動の科学・実技	1前	1								兼1
	ジェンダー論	1後	1	1							兼1
	加齢の科学	1後	1	1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2後	1	1		1					兼1
コミュニケーション関連科目	生命倫理	3前	1								兼1
	支援論	3前	1								兼1
	国語表現	1前	2						1		兼2
	英語Ⅰ	1前	2								兼2
	英語Ⅱ	1後		2							兼2
	コミュニケーション論	1後	1			1					兼1
	中国語	2前		2							兼1
自然科学関連科目	ポルトガル語Ⅰ	2後		2							兼1
	ポルトガル語Ⅱ	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1後	2			1					兼1
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1前		1		1					兼1
知的創造関連科目	情報科学	1前		2		1					兼1
	微生物学	1後	1					1			兼1
	性と生殖の科学	2前		1		1	1				兼1
	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
	研究入門	1後	1			1			2		
	連携ゼミナールⅠ	2通	1			9	6	6	2		
	連携ゼミナールⅡ	3通	1			9	6	6	2		
人文学部	アカデミックライティング	3前		1		1			2		
	英語文献講読	4後		1							兼1
	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1					
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
健康支援と保健医療システム	臨床栄養学	2後	1								兼1
	病態治療学概論	1後	1			1					
	病態治療学Ⅰ	2前	2			1					兼3
	病態治療学Ⅱ	2後	2			1					兼3
	病態治療学Ⅲ	2通	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
看護学	こころの科学	3前	1								兼1
	看護援助の関係論	1後	2			1	1	2			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
基礎看護学	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼2
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1		1					兼2
	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2					
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅲ	2後	2			2	1	1	1	2	
看護学入門	基礎看護学Ⅳ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	2	
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	2	
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	0		
	看護学入門Ⅱ	1前		1		1					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	数授	准数授	講師	助教	助手	
人間・社会学関連科目	心理学	1後	2			1					兼1
	哲学入門	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1前	1								兼1
	運動の科学・実技	1後	1								兼1
	ジェンダー論	1後	1	1							兼1
	加齢の科学	1後	1	1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2後	1	1							兼1
コミュニケーション関連科目	生命倫理	3前	1			1					兼1
	支援論	3前	1								兼1
	国語表現	1前	2						1		兼4
	英語Ⅰ	1前	2								兼2
	英語Ⅱ	1後		2							兼2
	コミュニケーション論	1後	1			1					兼1
	中国語	2前		2							兼1
自然科学関連科目	ポルトガル語Ⅰ	2後		2							兼1
	ポルトガル語Ⅱ	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1後	2			1					兼1
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1前		1		1					兼1
知的創造関連科目	情報科学	1前		2		1					兼1
	微生物学	1後	1					1			兼1
	性と生殖の科学	2前		1							兼1
	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
	研究入門	1後	1			1			2		
	連携ゼミナールⅠ	2通	1			9	5	5	2		
	連携ゼミナールⅡ	3通	1			9	5	5	2		
人文学部	アカデミックライティング	3前		1		1			2		
	英語文献講読	4後		1							兼1
	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1					
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
健康支援と保健医療システム	臨床栄養学	2後	1								兼1
	病態治療学概論	1後	1			1					
	病態治療学Ⅰ	2前	2			1					兼3
	病態治療学Ⅱ	2後	2			1					兼3
	病態治療学Ⅲ	2通	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
看護学	こころの科学	3前	1								兼1
	看護援助の関係論	1後	2			1	1	1			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
基礎看護学	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼1
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1		1					兼2
	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2					
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅲ	2後	2			2	1	1	1	2	
看護学入門	基礎看護学Ⅳ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	4	
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	4	
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	0		
	看護学入門Ⅱ	1前		1		1					

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
看護の実践	健康生活支援看護論	2前	2			1					
	プライマリヘルスケア論	2前	2		3						
	家族の健康と看護	2前		1		1					兼3
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1	1	1	0		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1	1	1	0	1	
	女性の健康生活支援看護実習	4後	2			1	1	1	0	1	
	在宅看護論	2後	1				2	0			兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1	2	0			
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1	1	1			
	療養生活支援看護実習	3後	4			1	2	1	1		
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1	2				
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1				2			1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3				2			2	
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2				2		1		
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	1		
	こどもの健康生活支援看護実習	4後	2			1		1	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1					
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1	1	1			
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1	1	1		1	
	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1				1			
	クリティカルケア論	4前		1				1			兼2
	緩和ケア論	4前		1				1			
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
看護の統合と発展	看護教育学	3後		2		1					
	国際看護論	3後		1							兼4
	看護管理学	4前		2		1		1			
	災害看護論	4前		1							兼1
	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	6	6	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
助産師課程専門科目群	総合看護実習	4後		3		2	4	7	3		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼5
	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1	1	1			兼2
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1	1	1	0		
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1	1	1	0		
	助産学演習	4前		1		1	1	1	0		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1	1	1	0	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1	1	1	0	1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上「人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上」、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間]) 上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。											

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
看護の実践	健康生活支援看護論	2前	2			1					
	プライマリヘルスケア論	2前	2		3						
	家族の健康と看護	2前		1		1					兼3
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1	1	1	0		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1	1	1	0	1	
	女性の健康生活支援看護実習	3後	2			1	1	1	0	1	
	在宅看護論	2後	1				2	0			兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1	1	1	0		
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1	1	1	1		
	療養生活支援看護実習	3後	4			1	1	1	1	1	
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1	2				
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1				2			1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3				2			2	
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2				1				
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2				2		1		
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		0	1		
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2			1		0	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1					
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1	1	1			
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1	1	1		1	
	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1				1			
	クリティカルケア論	4前		1				1			兼2
	緩和ケア論	4前		1				1			
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
看護の統合と発展	看護教育学	3後		2		1					
	国際看護論	3後		1							兼4
	看護管理学	4前		2		1		1			
	災害看護論	4前		1							兼1
	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	5	5	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
助産師課程専門科目群	総合看護実習	4後		3		2	3	6	3		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼5
	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1	1	1			兼1
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1	1	1	0		
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1	1	1	0		
	助産学演習	4前		1		1	1	1	0		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1	1	1	0	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1	1	1	0	1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上「人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上」、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間]) 上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

【平成29年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
人間・ 社会 学 関 連 科 目	心理学	1前	2			1					
	哲学入門	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1前	1								兼1
	運動の科学・実技	1後	1								兼1
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	加齢の科学	1後		1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2前		1		1					兼1
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 関 連 科 目	生命倫理	3前		1							
	支援論	3前		1							兼1
	国語表現	1前	2						1		兼2
	英語Ⅰ	1前	2								兼2
	英語Ⅱ	1後		2							
	コミュニケーション論	1後	1			1					
	中国語	2前		2							兼1
	ポルトガル語Ⅰ	2後		2							兼1
	ポルトガル語Ⅱ	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
自 然 科 学 関 連 科 目	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1前	2								
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1前		1			1				
	情報科学	1後	2				1				
	微生物学	1後	1						1		兼1
	性と生殖の科学	2前		1							兼1
智 の 創 造 関 連 科 目	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
	研究入門	1後	1			1	2		2		
	連携ゼミナールⅠ	2通	1			9	5	6	2		
	連携ゼミナールⅡ	3通	1			9	5	6	2		
	アカデミックライティング	3前		1			1		2		
	英語文献講読	4後		1							兼1
人 体 の 構 造 と 機 能	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1					
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
	臨床栄養学	2前	1								兼1
病 態 の メ カ ニ ズ と 病 害 の 防 止	病態治療学概論	1後	1			1					
	病態治療学Ⅰ	2前	2			1					兼3
	病態治療学Ⅱ	2後	2			1					兼3
	病態治療学Ⅲ	2後	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
	こころの科学	3前	1								兼1
健 康 支 援 と 保 健 医 療 シ ス テ ム	看護援助的関係論	1後	2			1	1	2			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼1
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1			1				兼2
基 礎 の 基	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2					
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅲ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅳ	2後	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	4	
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	4	
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	1		
	看護学入門Ⅱ	1前		1		1					

科目 区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
看護 の 実 践	健康生活支援看護論	2前	2				1				兼2
	プライマリヘルスケア論	2前	2			3					
	家族の健康と看護	2前		1			1				兼1
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1		1	1		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1		1	1	1	兼1
	女性の健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	1	1	
	在宅看護論	2後	1					1	1		兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1		1	1		
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	2		兼1
	療養生活支援看護実習	3後	4			1		1	2	1	
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1		2			兼1
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1					2		1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3					2		2	兼1
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2				1				
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2				2		1		兼1
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2				2		1		兼1
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	1		兼1
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1		1			兼1
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1		1	1		
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1		1		1	兼1
	医療安全管理論	3前		1							
	感染予防看護論	3前		1				1			兼2
	クリティカルケア論	4前		1				1			
	緩和ケア論	4前		1				1			兼1
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					
看護 の 統 合 と 発 展	看護教育学	3後		2							兼4
	国際看護論	3後		1		1					
	看護管理学	4前		2		1		1			兼1
	災害看護論	4前		1							
	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	5	6	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				兼4
	総合看護実習	4後		3		2	3	7	5		
	看護実践論	4後		1		1					兼6
	産科看護学	2後		2							
産 科 専 門 科 目	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1		1			
	助産診断技術Ⅰ	3後		2		1		1	1		兼1
	助産診断技術Ⅱ	3後		2		1		1	1		
	助産学演習	4前		1		1		1	1		兼1
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1		1	1	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1		1	1	1	兼1
											兼1

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

・兼任講師の都合により、「運動の科学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

【平成30年度】

・学修効果をより高めるため、「心理学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 ・兼任講師の都合により、「現代社会と家族」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「英語Ⅰ」の兼任・兼任の配置を「兼2」から「兼4」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「統計学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「情報科学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「連携ゼミナールⅠ」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「連携ゼミナールⅡ」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
 ・兼任講師の都合により、「臨床栄養学」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
 ・兼任講師の都合により、「病態治療学Ⅲ」の配当年次を「2後」から「2通」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「看護援助関係論」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「基礎看護学Ⅲ」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「基礎看護学Ⅳ」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「看護学入門Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「女性の健康生活支援看護Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「女性の健康生活支援看護Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「女性の健康生活支援看護実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「在宅看護論」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「療養生活支援看護Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「療養生活支援看護Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「療養生活支援看護実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「こどもの健康生活支援看護実習」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
 ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「総合ゼミナール」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
 ・専任教員の就任辞退および退職に伴い現在公募中のため、「総合看護実習」の専任教員等の配置を「講師7」から「講師6」、「助教5」から「助教3」に変更。
 ・兼任講師の就任辞退により、「周産期医学論」の兼任・兼任の配置を「兼6」から「兼5」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産診断技術Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産診断技術Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産学演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
 ・兼任講師の都合により、「家族の健康と看護」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。

【令和元年度】

・入学当初から学生同士の関わりを深め、離籍者を減らすことを目的として、「運動の科学・実技」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「英語Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼2」に変更。授業クラスを少人数化して、1クラス1名の教員が授業を担当する方法に切り替えたため。
 ・学修効果をより高めるため、「性と生殖の科学」に専任教員1名を追加。(H30教員審査済)
 ・就任辞退した専任教員の枠を補充したため、「連携ゼミナールⅠ」、「連携ゼミナールⅡ」、「看護援助関係論」、「女性の健康生活支援看護Ⅰ」、「女性の健康生活支援看護Ⅱ」、「女性の健康生活支援看護実習」、「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」、「こどもの健康生活支援看護実習」、「総合ゼミナール」、「総合看護実習」、「助産管理論」、「助産診断技術Ⅰ」、「助産診断技術Ⅱ」、「助産学演習」、「助産学実習Ⅰ」、「助産学実習Ⅱ」にそれぞれ専任教員を追加。(H30教員審査済)
 ・学修効果をより高めるため、「音楽療法」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。当該分野の、専門性の異なる2名をオムニバス形式で配置することにより、多面的に幅広い学修を目的としたため。
 ・専任教員(助手)の就任辞退に伴い現在公募中のため、「基礎看護学実習Ⅰ」、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員(助手)の配置を「4」から「2」に変更し、兼任の実習助手を2名配置予定。
 ・H29-30年度入学者数が設置計画時の予定を超過し、予定していた実習施設と実習期間では不足するため、「女性の健康生活支援看護実習」、「こどもの健康生活支援看護実習」の配当年次を「3後」から「3後・4前」に変更。
 ・学修効果をより高めるため、「在宅看護論」、「療養生活支援看護Ⅰ」、「療養生活支援看護Ⅱ」、「療養生活支援看護実習」に専任教員(講師)を追加。(R元教員審査済)
 ・学修効果をより高めるため、「助産管理論」に兼任教員1名を追加。院内助産・助産師外来などの専門性の高い実務家教員を配置することにより、幅広い学修を目的としたため。
 ・休職中の専任教員(准教授)の担当授業について、「女性の健康生活支援看護Ⅱ」、「女性の健康生活支援看護実習」、「総合看護実習」、「助産診断技術Ⅱ」、「助産学演習」、「助産学実習Ⅰ」、「助産学実習Ⅱ」の担当を、専任教員(教授)に変更。また、「性と生殖の科学」の担当を、専任教員(教授)・専任教員(講師)に変更。(R元教員審査済)

【令和2年度】

・新型コロナウイルス感染対策に伴い、Web授業での開講が難しかったため「哲学入門」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染対策に伴い、Web授業での開講も大学での開講もできないため「運動の科学・実技」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染対策に伴い、Web授業で開講できないため「情報リテラシー」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染対策に伴い、Web授業で開講できないため「情報科学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染対策に伴い、Web授業で開講できないため「教養ゼミナール」の配当年次を「1前」から「1通」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、兼任教員(医療従事者／実務家教員)の都合により「災害看護論」の配当年次を「4前」から「4後」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、兼任教員(医療従事者／実務家教員)の都合により「キャリア形成論」の配当年次を「4前」から「4後」に変更。
 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、兼任教員(医療従事者／実務家教員)の都合により「クリティカルケア論」の兼任講師担当回を、専任教員(講師)が担当したため、「兼2」から「兼0」に変更。
 ・「運動の科学・実技」について、昨年度までは個人競技(卓球)のみであったが、実技を通して学生同士の関わりや協働する態度を深めることを目的として、団体競技(バレーボール)を内容に追加したため、兼任・兼任の配置を「兼1」から「兼3」に変更。
 ・兼任講師の就任辞退に伴い、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」の兼任・兼任の配置を「兼2」から「兼1」に変更。昨年度から、学生をクラス分けし、教員1名で1クラスを担当して、複数クラスを開講していたため、授業への影響はなし。
 ・専任教員(教授)の退職に伴い、専任教員(教授)の担当科目を見直し、「基礎看護学Ⅰ」、「基礎看護学Ⅱ」、「基礎看護学Ⅲ」、「基礎看護学Ⅳ」、「基礎看護学Ⅴ」、「基礎看護学実習Ⅱ」、「看護学入門Ⅱ」の担当教員を変更したが、教員配置には変更なし。(R元教員審査済)
 ・専任教員(教授)の退職に伴い、「教養ゼミナール」は「教授8」から「教授7」へ、「連携ゼミナールⅠ」、「連携ゼミナールⅡ」、「総合ゼミナール」、「卒業研究」はそれぞれ「教授9」から「教授8」へ変更。
 ・休職中の専任教員(准教授)の担当授業について、欠員補充したため、「女性の健康生活支援看護Ⅱ」、「女性の健康生活支援看護実習」、「総合看護実習」、「助産診断技術Ⅱ」、「助産学演習」、「助産学実習Ⅰ」、「助産学実習Ⅱ」に、それぞれ専任教員(講師)を追加。また、「性と生殖の科学」について、専任教員(教授)に担当を変更。(R元教員審査済)
 ・学修効果をより高めるため、「療養生活支援看護実習」、「急性期回復支援看護Ⅱ」、「急性期回復支援看護実習」、「総合看護実習」に、それぞれ専任教員(助教)を追加。(R元教員審査済)

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
61 科目	49 科目	0 科目	110 科目	61 科目 [-]	49 科目 [-]	0 科目 [-]	110 科目 [-]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、 [] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{100} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	6465.45㎡	-㎡	-㎡	6465.45㎡				
	運動場用地	1487.59㎡	-㎡	-㎡	1487.59㎡				
	小 計	7953.04㎡	-㎡	-㎡	7953.04㎡				
	そ の 他	-㎡	-㎡	-㎡	-㎡				
	合 計	7953.04㎡	-㎡	-㎡	7953.04㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	8361.34㎡ (8361.34㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	8361.34㎡ (8361.34㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	8室	15室	5室	1室 (補助職員0人)	0 (補助職員0人)	大学全体			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	看護学部看護学科		36 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
		15,000 [1,040] 14,906 [957] 16,499 [959]	41 [5]	3 [3]	1,210 1,277 1,297	- - -	- - -		
	看護学部								
		15,000 [1,040] 14,906 [957] 16,499 [959]	41 [5]	3 [3]	1,210 1,277 1,297	- - -	- - -		
	計							経常経費による資料購入を行っているため (元)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	484.50㎡		95		30,290				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	-㎡		体 育 室 359 ㎡						
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの設備費（運用コストを含む。）を含む。
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	300千円	300千円	図書購入費	9,045千円	5,400千円	-千円	
		共 同 研 究 費 等	300千円	500千円	設備購入費	51,210千円	-千円	-千円	
	学生 1 人 当 り 納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	1,680千円	1,480千円	1,480千円	1,480千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		寄付金、補助金等による							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（2）」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	一 宮 研 伸 大 学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
看護学部 看護学科	年 4	人 80	年次 人 3年次 6	人 332	学士 (看護学)	倍 1.13	倍 1.03	年度 -	年度 平成29年度	年度 愛知県一宮市常盤通五丁目4番1	
大 学 の 名 称	愛 知 き わ み 看 護 短 期 大 学										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
看護学科	年 3	人 -	年次 人 -	人 -	短期大学士 (看護学)	倍 -	倍 -	年度 -	年度 平成16年度	年度 愛知県一宮市常盤通五丁目4番1	平成29年度より学生募集停止 平成31年度廃止認可申請書提出 令和元年9月廃止認可

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

(1) 一① 担当教員表

專任・		氏 名
-----	--	-----

[illegible]

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 （年 齢） ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	教授	小林 たつ子 平成29年 4月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究
専	教授	溝口 満子 平成31年 4月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・生命倫理 ・医療と看護の倫理 ・プライマリヘルスケア論 ・療養生活支援看護Ⅰ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・急性期回復支援看護Ⅰ ・総合ゼミナール ・卒業研究
専	教授	下村 明子 平成29年 4月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・プライマリヘルスケア論 ・こどもの健康生活支援看護Ⅰ ・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
専	教授	田辺 圭子 平成29年 4月 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護学入門Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅱ ・女性の健康生活支援看護実習 ・助産診断技術学Ⅰ ・助産診断技術学Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・助産学総論 ・助産管理論 ・助産学演習 ・助産学実習Ⅰ ・助産学実習Ⅱ
専	教授	石村 佳代子 平成31年 4月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護援助的関係論 ・こころの健康生活支援看護Ⅰ ・こころの健康生活支援看護Ⅱ ・こころの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
兼任	講師	石村 佳代子 平成29年 4月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・看護援助的関係論
専	准教授	野村 千文 平成29年 4月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・家族の健康と看護 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・総合看護実習

[illegible]

専任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
専	助教	山下 美智子 平成31年 4月 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習
専	助教	田畑 真澄 平成31年 4月 ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	助教	山下 美智子 平成31年4月 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習
		田畑 真澄 平成29年4月 ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習
専	助教	

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
専	助教	山下 美智子 平成31年 4月 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習
専	助教	田畑 真澄 平成29年 4月 ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 担当授業科目名
専	助教	山下 美智子 平成31年 4月 ・高齢者の健康生活支援看 Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看 実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看 実習Ⅱ ・総合看護実習
専	助教	田畑 真澄 平成29年 4月 ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習

氏 名 (年 齢) 就任（予定）年月＞	職 名	専任・兼任・兼任の別
担当授業科目名		
山下 美智子 平成31年4月	専 助教	
・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習		
田畑 真澄 平成20年4月	専 助教	
・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習		
南田 尚子 令和2年4月	専 助教	
・健康生活支援看護実習Ⅱ ・急性期回復支援看護Ⅱ ・急性期回復支援看護実習 ・総合看護実習		

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	・クリティカルケア論 ・看護実践論
兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	・クリティカルケア論
兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月	・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月	・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月	・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月	・音楽療法
兼任	講師	宮里 和子 平成29年 4月	・助産学総論 ・助産管理論
兼任	講師	三輪 廣繁 平成29年 4月	・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鹿山 由美 平成29年 4月	・支援論 ・英語Ⅰ
兼任	講師	鄭 羅慶 平成29年 4月	・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月	・哲学入門
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	・クリティカルケア論 ・看護実践論
兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	・クリティカルケア論
兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月	・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月	・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月	・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月	・音楽療法
兼任	講師	三輪 廣繁 平成29年 4月	・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鄭 羅慶 平成29年 4月	・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月	・哲学入門
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	・クリティカルケア論 ・看護実践論
兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	・クリティカルケア論
兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月	・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月	・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月	・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月	・音楽療法
兼任	講師	三輪 廣繁 平成29年 4月	・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鄭 羅慶 平成29年 4月	・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月	・哲学入門
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	担当授業科目名
兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	・クリティカルケア論 ・看護実践論
兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	・クリティカルケア論 ・支援論
兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月	・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月	・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月	・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月	・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月	・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月	・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月	・音楽療法
兼任	講師	三輪 廣繁 平成29年 4月	・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鄭 羅慶 平成29年 4月	・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月	・哲学入門

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	森 英樹 平成29年 4 月 ・法学
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4 月 ・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4 月 ・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4 月 ・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4 月 ・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4 月 ・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4 月 ・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4 月 ・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4 月 ・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4 月 ・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4 月 ・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4 月 ・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4 月 ・現代社会と経済
兼任	講師	ANDREW DAVID MCKERNON 平成29年 4 月 ・英語Ⅰ ・英語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	森 英樹 平成29年 4 月 ・法学
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4 月 ・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4 月 ・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4 月 ・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4 月 ・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4 月 ・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4 月 ・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4 月 ・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4 月 ・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4 月 ・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4 月 ・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4 月 ・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4 月 ・現代社会と経済
兼任	講師	ANDREW DAVID MCKERNON 平成29年 4 月 ・英語Ⅰ ・英語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4 月 ・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4 月 ・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4 月 ・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4 月 ・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4 月 ・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4 月 ・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4 月 ・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4 月 ・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4 月 ・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4 月 ・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4 月 ・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4 月 ・現代社会と経済
兼任	講師	ANDREW DAVID MCKERNON 平成29年 4 月 ・英語Ⅰ ・英語Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4 月 ・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4 月 ・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4 月 ・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4 月 ・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4 月 ・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4 月 ・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4 月 ・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4 月 ・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4 月 ・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4 月 ・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4 月 ・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4 月 ・現代社会と経済

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4 月 ・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4 月 ・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4 月 ・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4 月 ・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4 月 ・文化人類学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4 月 ・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4 月 ・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4 月 ・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4 月 ・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4 月 ・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4 月 ・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4 月 ・現代社会と経済

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	佐藤 和良 平成29年 4月 ・化学
		伊藤 伸一 平成29年 4月 ・医療概論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅰ
		村瀬 寛 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅰ
		近藤 三隆 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅱ
		唐澤 善幸 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ
		早川 朋人 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	金子 淳 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ
		小島 久典 平成29年 4月 ・こころの科学
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4月 ・性と生殖の科学
		嶋津 光真 平成29年 4月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4月 ・周産期医学論
		岡 京子 平成29年 4月 ・周産期医学論
兼任	講師	白石 弘章 平成29年 4月 ・周産期医学論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	佐藤 和良 平成29年 4月 ・化学
		伊藤 伸一 平成29年 4月 ・医療概論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三隆 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	唐澤 香幸 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	早川 朋人 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	金子 淳 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	小島 久典 平成29年 4月 ・こころの科学
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	端津 光真 平成29年 4月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4月 ・周産期医学論
兼任	講師	岡 京子 平成29年 4月 ・周産期医学論
兼任	講師	白石 弘章 平成29年 4月 ・周産期医学論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 伸一 平成29年4月 ・医療概論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年4月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三隆 平成29年4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	唐澤 善幸 平成29年4月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年4月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	金子 淳 平成29年4月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	小島 久典 平成29年4月 ・こころの科学
兼任	講師	中北 武男 平成29年4月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	嶋津 光真 平成29年4月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年4月 ・周産期医学論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 伸一 平成29年 4 月 ・医療概論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三陸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4 月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	端津 光真 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4 月 ・周産期医学論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月>
		担当授業科目名
兼任	講師	伊藤 伸一 平成29年 4 月 ・医療概論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三隆 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4 月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	嶋津 光真 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4 月 ・周産期医学論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	今永 弓子 平成29年4月 ・周産期医学論	兼任	講師	今永 弓子 平成29年4月 ・周産期医学論	兼任	講師	今永 弓子 平成29年4月 ・周産期医学論	兼任	講師	今永 弓子 平成29年4月 ・周産期医学論	兼任	講師	今永 弓子 平成29年4月 ・周産期医学論
兼任	講師	山崎 あけみ 平成29年4月 ・家族の健康と看護	兼任	講師	山崎 あけみ 平成29年4月 ・家族の健康と看護	兼任	講師	山崎 あけみ 平成29年4月 ・家族の健康と看護	兼任	講師	山崎 あけみ 平成29年4月 ・家族の健康と看護	兼任	講師	山崎 あけみ 平成29年4月 ・家族の健康と看護
兼任	講師	佐原 弘子 平成29年4月 ・看護情報学	兼任	講師	佐原 弘子 平成29年4月 ・看護情報学	兼任	講師	佐原 弘子 平成29年4月 ・看護情報学	兼任	講師	佐原 弘子 平成29年4月 ・看護情報学	兼任	講師	佐原 弘子 平成29年4月 ・看護情報学
兼任	講師	竹内 愛 平成29年4月 ・ジェンダー論	兼任	講師	竹内 愛 平成29年4月 ・ジェンダー論	兼任	講師	竹内 愛 平成29年4月 ・ジェンダー論	兼任	講師	竹内 愛 平成29年4月 ・ジェンダー論	兼任	講師	竹内 愛 平成29年4月 ・ジェンダー論
兼任	講師	野田 明美 平成29年4月 ・在宅看護論	兼任	講師	野田 明美 平成29年4月 ・在宅看護論	兼任	講師	野田 明美 平成29年4月 ・在宅看護論	兼任	講師	野田 明美 平成29年4月 ・在宅看護論	兼任	講師	野田 明美 平成29年4月 ・在宅看護論
兼任	講師	加藤 みちよ 平成29年4月 ・キャリア形成論	兼任	講師	加藤 みちよ 平成29年4月 ・キャリア形成論	兼任	講師	加藤 みちよ 平成29年4月 ・キャリア形成論	兼任	講師	加藤 みちよ 平成29年4月 ・キャリア形成論			
兼任	講師	山田 葉子 平成29年4月 ・キャリア形成論	兼任	講師	山田 葉子 平成29年4月 ・キャリア形成論	兼任	講師	山田 葉子 平成29年4月 ・キャリア形成論	兼任	講師	山田 葉子 平成29年4月 ・キャリア形成論			
兼任	講師	田中 香お里 平成29年4月 ・微生物学	兼任	講師	田中 香お里 平成29年4月 ・微生物学	兼任	講師	田中 香お里 平成29年4月 ・微生物学	兼任	講師	田中 香お里 平成29年4月 ・微生物学	兼任	講師	田中 香お里 平成29年4月 ・微生物学
						兼任	講師	川原 紗 平成30年4月 家族の健康と看護	兼任	講師	川原 紗 平成30年4月 家族の健康と看護	兼任	講師	川原 紗 平成30年4月 家族の健康と看護
						兼任	講師	小牧 亮也 平成30年4月 法学	兼任	講師	小牧 亮也 平成30年4月 法学			
						兼任	講師	Conrad Buosis 平成30年4月 英語 I	兼任	講師	Conrad Buosis 平成30年4月 英語 I 英語 II			
						兼任	講師	杉浦 信夫 平成30年4月 化学	兼任	講師	杉浦 信夫 平成30年4月 化学	兼任	講師	杉浦 信夫 平成30年4月 化学
						兼任	講師	南谷 智之 平成30年4月 周産期医学論	兼任	講師	南谷 智之 平成30年4月 周産期医学論	兼任	講師	南谷 智之 平成30年4月 周産期医学論
						兼任	講師	山川 紀世志 平成30年4月 病態治療学Ⅱ	兼任	講師	山川 紀世志 平成30年4月 病態治療学Ⅱ			
						兼任	講師	Matthew. B. C. Estelle 平成30年4月 英語 I	兼任	講師	Matthew. B. C. Estelle 平成30年4月 英語 I 英語 II	兼任	講師	Matthew. B. C. Estelle 平成30年4月 英語 I 英語 II
									兼任	講師	前川 厚子 平成31年4月 支援論			
						兼任	講師	李 徳林 平成31年4月 中国語	兼任	講師	李 徳林 平成31年4月 中国語	兼任	講師	李 徳林 平成31年4月 中国語

[illegible]

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 申請書・提出書類等の様式第3頁の「その他」に「1」に記入し作成してください。
・ 「認可時又は設置時又は開校時」に「設置時又は開校時の教員名」を記入(兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
・ **その中で、設置時又は開校時から変更となつてゐる箇所は赤字で記入してください。**
・ 各種の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実専)、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不平等年度(平成29年度開設であれば平成28年度)は適宜省略し、括弧でください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

溝口満子教授 教育の充実を図るため就任年度を前倒した。(29)
田畑真澄助教 教育の充実を図るため就任年度を前倒した。(29)

【平成30年度】

岡田摩理講師 一身上の都合により就任辞退(30)
岡田摩理非常勤講師 一身上の都合により就任辞退(30)
森仁美助教 一身上の都合により就任辞退(30)
赤羽根章子助教 一身上の都合により就任辞退(30)
赤羽根章子非常勤講師 一身上の都合により就任辞退(30)
佐藤和良非常勤講師 自己都合による退職(30)
森英樹非常勤講師 自己都合による退職(30)
川原妙非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
小牧亮也非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
Conrad Bucsis非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
杉浦信夫非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
南谷智之非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
山川紀世志非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
Matthew. B. C. Estelle非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
西川みゆき准教授 欠員補充のため採用(30) 平成30年7月教員審査済

【令和元年度】

森田せつ子教授 学長交代のため採用(元)
加藤千明講師 欠員補充のため採用(元) 平成30年7月教員審査済
馬場美穂講師 教育の充実を図るため採用 令和元年7月教員審査済
鹿山由美非常勤講師 自己都合による退職(元)
前川厚子非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
Andrew. D. McKernon非常勤講師 自己都合による退職(元)
李徳林非常勤講師 前任者辞退のため採用(元)
唐澤善幸非常勤講師 自己都合による退職(元)
大飼智雄非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
金子淳非常勤講師 自己都合による退職(元)
兒玉俊介非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
小島久典非常勤講師 自己都合による退職(元)
丸井友泰非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
菅田文子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)
宮里和子非常勤講師 自己都合による退職(元)
赤川里美非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
真野真紀子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)
西川有紀子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)
・令和2年3月 小林たつ子教授 自己都合による退職
・令和2年3月 松葉和久非常勤講師 自己都合による退職
・令和2年3月 加藤みちよ非常勤講師 自己都合による就任辞退
・令和2年3月 山田葉子非常勤講師 自己都合による就任辞退
・令和2年3月 小牧亮也非常勤講師 自己都合による就任辞退
・令和2年3月 Conrad Bucsis非常勤講師 自己都合による就任辞退
・令和2年3月 前川厚子非常勤講師 自己都合による就任辞退
・令和2年3月 山川紀世志非常勤講師 自己都合による就任辞退

【令和2年度】

・令和2年4月 土井まつ子教授 ()付で記載した科目について、現在 教員審査中
・令和2年4月 大瀬恵子講師 欠員補充のため採用 令和元年11月教員審査済
・令和2年4月 柿田尚子助教 欠員補充のため採用 令和元年11月教員審査済
・令和2年4月 野中章臣非常勤講師 教育の充実を図るため採用
・令和2年4月 近藤真非常勤講師 欠員補充のため採用
・令和2年4月 清水輝子非常勤講師 欠員補充のため採用
・令和2年4月 増田雄非常勤講師 欠員補充のため採用
・令和2年4月 吉見陽非常勤講師 欠員補充のため採用

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2)－① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2)－② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
10	5	7	8	30	4	10	6	9	7	32	2
(6)	(2)	(5)	(1)	(14)	(2)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
10	6	9	7	32	2	10	6	9	7	32	2
[-]	[1]	[2]	[Δ1]	[2]	[Δ2]	[-]	[1]	[2]	[Δ1]	[2]	[Δ2]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ **「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受理済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ 1）

(2)－③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	8	8
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)－④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{32}{30} = \boxed{106.66} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{8}{32} = \boxed{25} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)－⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{2}{4} = \boxed{50} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	講師	岡田 摩理	H29.3	必修	連携ゼミナールⅠ	①	一身上の都合により就任辞退（30）						
				必修	連携ゼミナールⅡ	①							
				必修	看護援助の関係論	①							
				必修	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	①							
				必修	こどもの健康生活支援看護実習	①							
				選択	総合ゼミナール	①							
				必修	総合看護実習	①							
2	助教	森 仁美	H29.3	必修	女性の健康生活支援看護Ⅰ	①	一身上の都合により就任辞退（30）						
				必修	女性の健康生活支援看護Ⅱ	①							
				必修	女性の健康生活支援看護実習	①							
				必修	総合看護実習	①							
				選択	助産診断技術学Ⅰ	①							
				選択	助産診断技術学Ⅱ	①							
				選択	助産学演習	①							
				選択	助産学実習Ⅰ	①							
				選択	助産学実習Ⅱ	①							
3	助教	赤羽根 章子	H29.9	選択	看護学入門Ⅰ	①	一身上の都合により就任辞退（30）						
				必修	在宅看護論	①							
				必修	療養生活支援看護Ⅰ	①							
				必修	療養生活支援看護Ⅱ	①							
				必修	療養生活支援看護実習	①							
				必修	総合看護実習	①							
				合計（D）					後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
3	人	必修	15	科目	必修	15	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	7	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	22	科目	計	22	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
1	教授	小林 たつ子	R2.3	必修	教養ゼミナール	①	R2.3.31付け一身上の都合により辞任（R2）						
				必修	連携ゼミナールⅠ	①							
				必修	連携ゼミナールⅡ	①							
				必修	基礎看護学Ⅰ	①							
				必修	基礎看護学Ⅱ	①							
				必修	基礎看護学Ⅲ	①							
				必修	基礎看護学Ⅳ	①							
				必修	基礎看護学Ⅴ	①							
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①							
				選択	総合ゼミナール	①							
選択	卒業研究	①											
合 計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）				
1	人	必修	9	科目	必修	9	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
4	人	必修	24 科目	必修	24 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	9 科目	選択	9 科目	選択	0 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	33 科目	計	33 科目	計	0 科目	計	0 科目		

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{4}{30} = \boxed{13.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
「該当なし」						
合 計				後任補充状況の集計		
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0 人	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員について**に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」及び「学生への周知方法」

シラバスの配布や、新学期開始の際オリエンテーションで教員を紹介している。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の の実施計画
設 置 時 (28年10月)	1. 設置の趣旨・目的等 が生かされるよう、設 置計画を確実に履行す ること。また、開設時 から4年制大学にふさ わしい教育研究活動 を行うことはもとより、 その水準を一層向上さ せるよう努めること。	留意事項	設置計画時のカリキュラム どおり教育活動を実施して います。また、教育活動の 向上に努めています。 (29)	履行済	
	2. 運動場が別地にある ことから、教育に支障 のないようにすること はもとより、学生の課 外活動等に配慮するこ と。	留意事項	設置計画時のカリキュラム に基づき教育に支障のない よう履行し、また、学生の 課外活動等にも配慮してい ます。(29)	履行済	
設置計画履行状況 調 査 時 (30年2月)	看護学部看護学科にお いて、定年規程に定め る退職年齢を超える専 任教員数の割合が比較 的高いことから、定年 規程の趣旨を踏まえた 適切な運用に努めると ともに、教員組織編制 の将来構想について検 討すること。	改善意見	大学の運営検討機関である ガバナンス会議を設置し、 検討を開始している。 (30)	履行中	大学完成時において定年 規程に定める年齢以上の 教員を、定年規程に基づ く適正な年齢になるよう 努める。(30)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年5月)	学長を補佐する役職者 を設けるなど大学組織 が適切に機能する取組 に努めること。	指摘事項 (改善)	新たに副学長を任命し、大 学組織が適切に機能するよ う努めています。(元)	履行済	

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設置計画履行状況 追加書面調査時 （令和元年9月）	平成30年度設置計画 履行状況等調査におい て付された指摘事項 （改善）について、新 たに任命した副学長の 具体的な役割を説明す るとともに、それが大 学組織が適切に機能す ることによりどのように寄 与するのか、改めて説 明すること。	指摘事項 （改善） 平成30年度、前学長の体 調不良により学長の職務遂 行に若干の滞りが見られた ことや緊急事態発生に対応 できるよう、学長職務の遂 行補助もしくは代行するも のとして、副学長を置くこ とを規定し選考を行った。 （一宮研伸大学副学長選考 規程） これにより、①学長の事 故等により学長の職務に支 障をきたすリスクを回避で きる体制、②学長の業務の 一部について副学長に委任 できる体制が整備。この大 きな2点が副学長の主な役 割であり、大学の組織の中 での学長不在の場合のリス ク回避および業務の軽減に 寄与している。 なお、平成31年度には 学長が交代し、職務遂行に 支障をきたすことは無い が、副学長の就任により、 大学の運営会議への参画や 学長直轄の大学評価に係る 評価専門部会の長として評 価の総括等を担うなど、学 長を補佐する業務を行って いる。	履行済
設置計画履行状況 調査時 （令和2年5月）	なし		

（注）・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	「該当なし」

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD・SD委員を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年間計11回開催し、教員6名、職員2名が参加した。

c 委員会の審議事項等

1. FD研修プログラムの立案・実施・評価を行う。
2. SD研修プログラムの立案・実施・評価を行う。
3. FD、SD研修プログラムの評価結果を教職員へフィードバックする。
4. 公開講座の立案・実施・評価を行う。
5. 次年度予算を申請する。
6. 次年度活動計画案を作成する。
7. 年間活動報告書を作成する。記載内容：実施日時、実施内容、今後の検討課題、来年度委員会計画案
8. 3月下旬までに次年度委員へ引継ぎを行う。

② 実施状況

a 実施内容

1. FD研修会

【研究支援】①文部科学省科研申請に向けての研修

②外部研修報告会「情報セキュリティ対策」

【教育支援】「ゼミナール指導のためのポートフォリオ評価法」をテーマに、外部講師を招き研修会を行った。

2. SD研修会

「コミュニケーションスキルの促進」を目的とした研修会を行った。

3. 公開講座

「睡眠は脳と心の栄養ーこどもからお年寄りまで睡眠改善健康法ー」をテーマに外部講師を招き講座を行った。

b 実施方法

1. FD研修会

【研究支援】①文部科学省科学研究費申請に向けての研修

②外部研修報告会「情報セキュリティ対策」

【教育支援】①「ゼミナール指導のためのポートフォリオ評価法」

教育支援に関する研修を企画し、実施した。研修後はアンケートを行いフィードバックを行った。

2. SD研修会

「コミュニケーションスキルの促進」を目的とした体験学習型研修会を行った。

3. 公開講座

「睡眠は脳と心の栄養ーこどもからお年寄りまで睡眠改善健康法ー」

外部講師を招き、駅ビル内大会議室にて、市民および学部生、教職員参加のもと講演会を行った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1.FD研修会

【研究支援】①令和元年7月24日（水） 参加人数 31名

②令和元年11月27日（水） 参加人数 30名

【教育支援】①令和元年10月23日（木） 参加人数 20名

2.SD研修会

①令和元年12月25日（水） 参加人数29名

3.公開講座

令和元年9月28日(土) 参加人数 81名（外部参加者59名 教職員22名）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

受講後の任意アンケートにて、研修内容の理解度や満足度など、研修会での反応について調査を行っている。

研修後に知識を活かし行動しているか、教育や大学運営の改善に効果が出ているかなどの評価はできていない。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期（4月～8月）・後期（9月～3月）各授業終了後に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

「学生による授業評価アンケート結果報告書」を作成し、1か月間（前期分：2019年12月～2020年1月、後期分：2020年5月～6月の予定）に教員・学生に公開した。公開に当たっては、教員は掲示、メールおよび教員会議、学生は掲示によって周知を図った。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 「該当なし」

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。
併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成29年4月に4年生大学として開学以来、入学者は初年度97名、2年度98名、3年度87名（編入1名）、今年度は83名が入学しました。初年度以来、本学は複数のアドバイザー教員による少人数教育を進め学生の勉学意欲を高めるようにしてきました。それとともに、今年度は教員だけではなく各委員会と学務課を中心に学習支援に関する計画を立案する教職員協働体制をより強化し、それを元に学習支援体制の整備を進めています。このことにより学生と職員のコミュニケーションがよりよくとれるようになり色々な支援がスムーズになりました。また、学生の学習意欲をさらに高めるために、ゼミナール室を利用した自主的な学習意欲を高めるため利用時間の延長や図書館を利用した自主学習を積極的に推進してきたため、学生の自主的な学習が進んでいる状況がみられ本学の設置の趣旨に書かれた看護教育の目標に沿った教育が進んでいることが考えられます。

② 自己点検・評価報告書

自己点検・評価を具体的に進めるため、自己点検・評価委員会の下に専門部会を設置し、委員会委員長、事務局長、教員1名及び事務職員1名の4名からなる専門部会を発足させた。専門部会として、まず、2021年度の基本目標の設定と行程表作成の議論を行った。その議論の上に、2019年度の報告書を作成する作業を行うことになり、教職員に対し基本目標の策定考え方等の説明を行いました。現在、各領域、各委員会及び事務部等から策定された目標、実施内容、点検評価を提出してもらい、専門部会で内容を検討中です。ただ、自己点検・評価報告書を作成し外部の評価を受けるのは、当初決定したとおり完成年度の3年後に認証評価を受け、その結果は令和6年度中に公表する予定です。

a 公表（予定）時期

令和6年7月頃

b 公表方法

・本学ホームページに公開予定です。

・自己点検・評価報告書をデータ化しCDとして、本学図書館に設置するとともに、本学実習施設、東海三県の大学及び中部地方の看護大学に配布する予定です。

③ 認証評価を受ける計画

・完成年度以降の自己点検・評価報告書が完成した時に評価機構（公益財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受けるよう考えております。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和2年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ ☒ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [☒ ウェブサイトへの掲載 ・ ☐ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。